

「人文情報学」の研究環境を考える

関野 樹^{†1} 北本朝展^{†2, †3}

概要: 第 117 回人文科学とコンピュータ研究会において、「人文情報学」の研究環境に関するアイデアソンを開催する。主なテーマとして、成果公開、キャリアパス、教育、研究資金、社会貢献などを想定している。本企画が、参加者の人文学研究の進め方を考える機会となるだけでなく、人文科学とコンピュータ研究会や情報処理学会をはじめとするコミュニティの運営へのフィードバックを得る場となることを期待したい。

キーワード: 学際研究, 成果公開, キャリアパス, 教育, 研究資金, 研究と社会

Consideration about Research Environment of “Digital Humanities”

TATSUKI SEKINO^{†1} ASANOBU KITAMOTO^{†2}

Abstract: An ideathon about research environment of “Digital Humanities” will be held in 117th SIG-CH research workshop. Themes such as publication and dissemination, career path, education, funding, research and society will be discussed in the ideathon. The organizer expects that the ideathon is not only an opportunity for participants to think about their direction of research, but also a place for academic societies such as SIG-CH and IPSJ to receive feedback for the management of the community.

Keywords: interdisciplinary study, publication and dissemination, career path, education, funding, research and society

1. はじめに

研究を遂行するためには、研究そのものだけでなく、研究資金、評価、ポストなど研究環境にまつわる多くの問題を解決していく必要がある。特に人文科学と情報学の学際研究によって成り立つ「人文情報学」においては、既存の学問分野とは異なる問題に直面することが少なくない。このような研究環境にかかる問題は、「人文情報学」の現役の研究者にとって懸念材料となるだけでなく、当該分野への新規参入の障害となっている可能性もある。

このような状況に鑑み、人文科学とコンピュータ研究会 (SIG-CH) の第 117 回研究会において、アイデアソンを開催する (人文学オープンデータ共同利用センター (CODH) との共催)。本企画では、人文情報学の研究環境についての課題や実情を共有し、研究者個人から SIG-CH や情報処理学会などの学協会まで、個人や組織における問題解決のためのヒントやアイデアを探る。

2. 主なテーマ

アイデアソンでは、いくつかのテーマに分かれて参加者によるグループディスカッションを行う。「人文情報学」

の研究環境に関して想定する主なテーマとその対象者、および、共有可能な情報と検討課題は、以下のとおりである。無論、これら以外についても、「人文科学」の研究環境について広く議論のテーマを募る予定である。

(1) 成果公開—自分の研究成果の効果的な広め方

(対象) 研究者、学生

(共有可能な情報・検討課題)

- Journal (国内・国際) — 査読の有無、期間など
- 国内関連学会、国際会議—参加者の傾向やどのような議論がなされるかも含めて
- 各種表彰制度—SIG-CH では奨励賞、じんもんこん論文賞など、他の学会等の状況
- ウェブ時代の新しいトレンド- SNS やプレプリント、GitHub などの活用

(2) キャリアパス—「人文情報学」でのキャリアの伸ばし方

(対象) 研究者、学生

(共有可能な情報・検討課題)

- 研究者への道 (研究機関、行政、企業、など)
- ポスドクへの道 (国内の状況、海外の状況)
- 専門家への道 (MLA、行政、企業、URA など)
- 学際研究経験の効果的なアピール方法

(3) 教育—「人文情報学」を学ぶ場の見つけ方

(対象) 学生

^{†1} 総合地球環境学研究所

Research Institute for Humanity and Nature

^{†2} 情報・システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設 人文学オープンデータ共同利用センター

Center for Open Data in the Humanities, Joint Support-Center for Data Science Research, Research Organization of Information and Systems

^{†3} 国立情報学研究所

National Institute of Informatics

(共有可能な情報・検討課題)

- ・「人文情報学」を学べる大学、大学院
- ・学位の取得事例（研究内容など）
- ・勉強会（研究室・ゼミを越えた学びの場）
- ・講習会（デジタルツールの使い方など）
- ・海外経験（留学、サマースクールなど）

(4) 研究資金－研究を進めるためのお金の集め方

(対象) 研究者、学生

(共有可能な情報・検討課題)

- ・関連する科研費の分野
- ・過去の大きな研究プロジェクト
- ・その他の研究助成（特に、「人文情報学」に関連するもの）
- ・公募型の共同研究（研究組織が募集しているものなど）
- ・研究成果やアイデアの効果的なアピール方法（申請書の書き方なども含めて）

(5) 研究と社会－研究成果の実用化や社会貢献へのつなげ方

(対象) 研究者、企業

(共有可能な情報・検討課題)

- ・MLA（博物館・図書館・文書館）連携（展示、資料収集、ほか）
- ・市民参加型研究、オープンサイエンス
- ・産学連携
- ・ウェブサービス、アプリ、オープンソースなどの運用とコミュニティの成長

3. 期待される成果

本企画での議論が情報共有の仕組み作りといった問題の解決に向けた具体的な施策に繋がることを目指す。これにより、現在の「人文情報学」の関係者の活動の円滑化だけでなく、この分野に興味を抱いている研究者や学生が抱く不安や疑問の解消にもつながれば幸いである。この企画での成果が、人文科学とコンピュータ研究会や情報処理学会をはじめとする学協会、さらには、各研究組織の運営にも寄与することを期待したい。